

令和8年度 学校経営方針

1, 理想とする学校像

- ・児童にとって楽しく学びたくなる学校
- ・保護者にとって安心して通わせたい学校
- ・教職員にとって生き甲斐をもって勤めたい学校

2, 学校教育目標

- 深く考え やりぬく子（創造性）…自ら課題に向き合い仲間と解決に向かうことができる。
- なかよく 助け合う子（人間性）…困っている仲間へ寄り添うことができる。
- 明るく たくましい子（主体性）…健康な生活と居場所をお互いに保障しあうことができる。

3, 達成させるための方策

- (1) 特色ある学校づくりを目指した教育課程の編成・実施と評価・改善
 - ・協働的な学びの質の向上
(港小の学びのビジョンと哲学の共有・学びのシステムについての理解と実践)
 - ・体験を重視した学習活動の充実
 - ・学習指導要領を具現化する教育課程の編成
- (2) 学校改革を進める研修の充実
 - ・全教職員が参加・共有できる研修体制の確立
 - ・研究会・研修会へのオンライン等も活用した積極的参加と予算措置
- (3) 目標達成のための協働体制の確立
 - ・子どもの学びと成長を中心にすえた協働
 - ・報告、連絡、相談の緊密化による円滑な運営の推進と分掌機能の発揮
- (4) 危機管理の徹底
 - ・児童の生命の安全確保を第一に考え、日常の環境整備、推進体制の確立に努める。
 - ・非常事態を常に想定し、危機管理の認識を高める(危機管理マニュアルの改善・充実)。
- (5) 教育環境の整備と活用
 - ・落ち着きと清潔感が感じられるユニバーサルデザインを意識した校内外の環境整備に努める。
 - ・学校内外の施設、設備の点検を確実にし、安全を確保する。
- (6) 家庭・地域との連携
 - ・家庭学習の改善(授業と連動した内容とシステムの確立)
 - ・メディアとのつきあい方における家庭との共有(子育て提言の浸透)
 - ・地域行事への参加の奨励
 - ・地域の教育環境(自然、歴史、文化、施設、人材等)の積極的活用
 - ・学校行事の工夫と精選をとおした児童の成長にふれる場の拡大

(7) CS を活用した学校間連携

- ・指導の連続性と児童理解を深めるため、幼保・中との連携
- ・南地区の小中学校間での連携を強め、効果的指導と教師力の向上
- ・義務教育9年間を見通した教育課程の推進
- ・それぞれの学校の教育活動の独自性を尊重し学びあうと同時に南地区の子育ての歴史と伝統を発展的に継承するための論議

4, 本年度の重点課題

「主体的・対話的で深い学びの創造」

(1) 学びの基礎・基本を身につける

- ・1人もおきざりにしない学びの追求
- ・「できた」「わかった」が実感できる授業の創造
- ・学び合う関係の重視

(2) 自立と共生、たくましく生き抜く力を身につける

- ・個々の違い（能力差・個性）を学びの場に生かすことで共生の意識を身につける。
- ・内面的な強さ（優しさを貫く強さ）を醸成するためのコミュニケーション能力を向上させる。
- ・体力・運動能力のバランスのとれた向上をめざす。

5, 港小のすばらしさ

(1) 自然環境のよさ

- ・学校登下校の坂道…自然に足腰が丈夫になり体力向上、徒歩通学の推進
- ・自然に恵まれている…春（タケノコ採り）、夏（農園活動）、秋（バッタ捕り）、冬（チューブ滑り）など安全な中での自然体験の充実、豊かな心情の育成

(2) 学習環境のよさ

- ・豊かな自然…市街地から隔絶され自然環境に恵まれていることによる安全な活動
- ・少人数指導…各学級10数名程度～学力向上に最も効果的な指導

(3) 少人数のよさ

- ・意見を述べる機会が増えることにより、深められる思考
- ・一人一人に目が行き届くことにより、つまずきの発見・個々の学習への対応
- ・児童の理解と意欲の向上の期待
- ・子どもの悩みや保護者の教育要求に応える時間が増え、いじめや・不登校の減少

(4) 活動の多様さ

- ・児童一人一人の教育活動での出番が多く、育つ責任感・思いやりの心と協働的な態度、コミュニケーション能力の育成
- ・縦割り活動（清掃、行事等）による役割の自覚と発揮により育まれる、リーダーとしての気質、集団での行動によりルールを理解し尊重する態度

6、港小の特色ある4つの教育活動のさらなる深化

◇学びを育てる教育活動

- ①一人一人を大事にした協働的学び → 「学びの楽しさ」との出会い
個別最適な学びと協働的な学びの一体的な充実
- ②朝読書、読書指導 → 思考力・創造力の育成
- ③ICT 機器の活用、計算、漢字、読解などの取組 → 基礎的な学力の育成
- ④放課後学習、長期休業中の学習会 → 自主的に学ぶ力の育成
- ⑤A L Tを活用した外国語活動 → コミュニケーション能力の育成
- ⑥(保・幼)・小中・(高・大)9年間を見通した教育活動 → 目指す子どもの育成

◇心を育てる教育活動

- ①道徳の時間の充実 → 道徳的実践力の育成
- ②全校活動～行事、全校遊びの集会等 → 学校文化の醸成
- ③自治的な生活を営む委員会活動 → 主体性の育成
- ④縦割り清掃 → 協調性の育成・港小文化の伝承
- ⑤性教育指導 → 自他の尊重
- ⑥平和学習 → 歴史認識と未来への展望づくり
- ⑦奉仕活動(校外清掃) → 感謝の心の表現

◇体を育てる教育活動

- ①日常の体育活動の充実 → 粘り強さの育成・体力向上
- ②食育の指導 → 健康の自己管理と感謝の心の育成
- ③スポーツテスト → 体力運動能力のバランスの取れた発達
- ④スキー・カーリングの取組 → 稚内市の環境・特色を生かした教育活動の充実
- ⑤各種保健指導 → 望ましい生活習慣の確立

◇伝統・文化を受け継ぐ教育活動の精選と充実

- ①全校合唱 → 聴き合う関係をベースとした指導
- ②港小ソーラン → 郷土愛の育成、のびのびとした身体表現
- ③港小森林太鼓 → 伝統の継承
- ④百人一首・書き初め → 集中力の高まり・仲間との絆
- ⑤地区P、地域行事等のへの参加 → 地域貢献と感謝

7, 各領域のねらい

- ◆学習指導～協働学習の質を追求する中で思考力・表現力の向上をめざす
 - ・課題の精選と工夫をすることで授業へのモチベーションアップ
 - ・言語活動を充実させ、表現し伝える能力の向上
- ◆特別の教科道徳の指導～道徳の時間の充実を図り、道徳的実践力（日常における）の向上
 - ・自他の生命や人権を尊重するとともに、自尊感情の育成
 - ・ルールの意義を理解させて規範意識を育み、共に生きる力の育成
- ◆特別活動～自分の役割を自覚し、みんなと協力して取り組む子どもを育成
 - ・進んでみんなのためになる活動に取り組む態度の育成
 - ・リーダーとフォロアーの関係の実践的理解
- ◆総合的な学習の時間～教科横断的な力の育成、キャリアデザインの発想を生かした取組
 - ・表現力の向上（インプットとアウトプットの螺旋による成長）
 - ・仲間の頑張りやよさに気づき交流することで高める自己肯定感
 - ・SDGsの視点を活用した学習課題の設定や単元計画
- ◆外国語活動・外国語～国際感覚を養い、コミュニケーションを楽しむ子どもを育成する
 - ・外国の文化を理解し、自国の良さを発信できる活動をつくる。
 - ・ALTとの活動を通して互いに理解し合い、協力する体験の大切さを理解する。
- ◆特別支援教育～障がいを乗り越え、たくましく生き抜くことのできる子どもの育成
 - ・インクルーシブ教育を推進し必要な合理的配慮ができる環境づくり。
 - ・ユニバーサルデザインの教育をめざし、自他の課題や困難性を理解し、助け合って克服していく力の向上
 - ・交流・協働学習の質の向上
 - ・個別の支援計画・指導計画の作成と活用
 - ・教職員での研修の充実
 - ・校内特別支援委員会の機能発揮
- ◆生徒指導～弱さに寄り添える心の育成
 - ・ルールの意義を学び、よりよい生活を創る意識の向上
 - ・「共感的」人間観に立ち、自他を大切に思いやりの心の育成
- ◆健康・安全教育～健康な心身の育成に積極的に取り組む子どもの育成
 - ・望ましい生活習慣の定着（メディアとのつきあい方）
 - ・めあてを明確にした体力づくりの継続
 - ・性教育の具体的指導を通し、自他を尊重する態度の育成
- ◆国際(理解)教育～グローバル人材の育成
 - ・異文化や異なる文化をもつ人々を受容し、共生することのできる態度・能力の育成
 - ・自らの国の伝統・文化に根ざした自己の確立
 - ・自らの考えや意見を自ら発信し、具体的に行動することのできる態度・能力の育成